

平成23年10月18日(木)

第24回 運営推進会議 議事録

実施日：平成23年10月17日(水)

場所：西町内科クリニック 待合室

時間：午後1:00～午後2:00

参加者：(家族)佐伯氏・(家族)伊藤様 / (町内会)高士氏・瀬野氏/
(支援センター)山崎氏/(管理者)谷口

計6名

欠席者：(医師)小笠原氏/

計1名

＜会議内容＞

1.(8月、9月)西まちだよりを配付し月毎の内容を説明した。

- ・8月・・・特に大きな行事はなかった。お盆といっても特に外泊者もない。

8月30日に看取りをした。独歩で入居してきたが認知症状がとても重く進行も早かった。除々にパーキンソン症状出現し歩行できなくなり経口摂取も徐々に飲み込み出来なくなり寝たっきりとなり点滴を行っていた。

しかし全身浮腫増強し点滴も中止して4週間後息を引き取った。

息を引き取る数分前まで意識あり眠るように穏やかに息を引き取った。

「看取り」に関しては本人の意向(元気だったころどのように考えていたか)を踏まえて、いざという時、病院で延命処置をするのか？またはホームで自然体に穏やかに看取りをするのか？落ち着いた選択が出来るように常日頃より家族会や状況変化があるたびに伝えるように意識している。

又家族間でも普段あまり面会に出来ない家族さん達にはホームの情報を常に流して頂き「看取り」に関する意思確認を家族間で統一して頂くよう伝えている。

- ・9月・・・9月18日「敬老祝い」を実施。町内会の皆さんにはいつも「フラダンス」をお願いし参加して頂いている。入居者の皆さんには華やかな衣装等がとても目を引き喜ばれている。

2. 入居者の認知度について

- ・別紙資料を配布し内容を説明した。

・2階梅ユニット：平均年齢88歳・平均介護度4.3・全介助者7名

・3階竹ユニット：平均年齢85歳・平均介護度2.9・全介助者1名

・意思疎通度とは全く問題なく意思疎通できる状態100と捉え1日24時間の関わりの中で意思疎通がとれる数値として表してみた。0は全く反応がない。1は声かけるとタイミングよく笑う。というふうに捉えてみた。

・ではなぜ？90以上の方がグループホームに入居できているのか？という質問に答えた。

①入居前は病院に入院していた。医師より「認知症」と診断された。

②自宅での家族介護ができない。(家族が仕事をしている)

③1人にさせられない。

これらの事からグループホームを勧められ入居して来た。

月日が経ち環境やスタッフに馴染み精神面の落ち着きから認知症状が軽減し現在穏やかに精神面の乱れもなく生活している。しかし認知症状が落ち着き「自宅での生活」か「他の施設」への転居を何度も勧めたが本人・家族からの「ここで最期を迎えたい」という強い要望が当ホーム側として拒否できない現状もあった。又本人には転居しなければならないという精神面への不安から認知症状悪化の恐れも考慮しなければならない現状もあった。

家族の受け入れ体制にも問題があり本人と家族の距離間で必ずしも在宅がベストともいえないこともある。

一度退所すると再度入居したくても入れないのが現実。

又別な施設もなかなか入居できないこともある。

3. 待機状況

・10月16日竹ユニット(3階)97才女性の看取りをした。

・1空室ある。

・待機者は6名。(老健入居者3名、グループホーム入居者、地方在住者2名)

・待機者の方がいても在宅で生活している緊急性のある方から優先入居を検討している。

※認知症を抱えている方が増えてきているが専門医が少ない。

・医師ももっと認知症に対しての知識を得てほしい。

・「あれっ！」と思ったら新たな薬も出ているので早めの受診をする。

・それでも落ちつかない場合は早めに薬を止め症状の変化等を診て欲しい。

4. 敬老祝い・秋の運動会のビデオを放映した。

・映像を通し入居者との関わりやどのような事をしているかを見ていただいた。

次回 運営推進会議開催日	平成 23 年 12 月 21 日(水)
--------------	----------------------

医療法人 尚仁会
グループホーム「西まち」
管理者 谷口 良子